

今週のメニュー

■トピックス

◇第20回中央区 子どもとためす環境まつりに出展～中央区立久松小学校～

■随想

◇自然に親しむ（その2）～生物多様性と食物連鎖～

内田 陽一（元 塩ビ工業・環境協会）

■トピックス

◇第20回中央区子どもとためす環境まつりに出展～中央区立久松小学校～

10月28日（土）、中央区環境保全ネットワークが主催する体験型環境イベント『第20回 子どもとためす環境まつり』が、東京都中央区 立久松小学校で開催されました。塩ビ工業・環境協会は、PVCクラフト教室とオリジナル消しゴム作り教室を出展。今回のメルマガではイベントの様子を中心に中央区の環境教育の取り組みを紹介します。

『子どもとためす環境まつり』は「中央区の区民と企業、行政が連携して環境保全に取り組み、より良い地球環境を次世代に残す」という目的の下、中央区環境保全ネットワークにより立ち上げられました（2002年）。以来、体験型の環境イベントとして、中央区内の小学校で毎年開催され、今年で20回目の開催となります。参加する企業・団体は27団体、小学校5校、親子連れ650名が参加。VECは環境学習の応援として、2009年から参加しています。

VECのブースでは、子供向けにPVCクラフトと消しゴム作りを出展。クラフト教室ではPVC製の動物クラフト（3種類）を、消しゴム教室ではオリジナルのシマシマ消しゴム作り（6色）を、それぞれ体験してもらいました。

消しゴム作りでは、消しゴムの仕上がりを見て“わあ！”と歓声が上がったり、クラフトでは子供たちの真剣な態度に感心したり、子供たちにとってどちらも良い体験になったと思います。

一方、大人向けの展示コーナーでは、身の周りの様々な塩ビ製品を展示（充電コード、ウィッグ、食品サンプル、塩ビラップ、縄跳び、壁紙など）。実際に触っていただきながら、他のプラスチックとの違いやリサイクル性を説明。特に声が多かったのは、【塩ビはその60%が塩から作られていること／エコ素材であること】に“本当ですか？”と驚きの声（とても強い関心）。





PVC クラフト教室の様子



消しゴム作りの様子

他方、“塩ビってなに？”とか、“燃やすと良くない…”などの声も聞かれ、更なる広報活動の必要性を実感しました。また、外務副大臣が VEC のブースに立ち寄られ、その際に VEC の活動概要を紹介しました。

5時間のイベントを通して、VEC のブースには 205 名（子供 133 名と大人 72 名）が来場。楽しんでいただきました。VEC は今後も同様のイベントに積極的に参加し、身近で素敵なエコ素材／PVC の広報活動を推進したいと考えます。

今回、ご紹介した『子どもとためす環境まつり』は様々な分野・ブースでの体験を通して、地球の環境保全について学んでもらうイベントです。子供たちのみならず環境を大切にする思い、そして、自分に何ができるのかを改めて問い直す良い機会を提供していると感じます。今後、中央区環境保全ネットワークの活動が益々拡大していくことを期待しております。

最後に、『子どもとためす環境まつり』WEB 版も開催されています (<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGK4prXjIUJ1Emgl7JirQkEzzEn5iUrnT>)。VEC からは動画（かわいい忍者とゴイスー博士の解説）で「身近なプラスチック・塩ビ」を紹介します。ご興味のある方は是非ご覧ください。

## ■ 随想

### ◇自然に親しむ（その2）～生物多様性と食物連鎖～

内田 陽一（元 塩ビ工業・環境協会）

前回は自転車によく巡っていた武蔵野台地とその景色について紹介しましたが、引き続き道すがら見かけた生物の生態や取り巻く環境についてお話ししたいと思います。

2023年6月1日より、特定外来生物<sup>※</sup>による生態系などの被害の防止に関する法律に基づいて、アカミミガメとアメリカザリガニの規制が始まりました。野外への放出、輸入、販売、購入、頒布等を許可なしに行うことが禁止されました。特定外来生物を野外

において捕まえた場合、持って帰ることは禁止されていますが、その場ですぐに放すことは規制対象外ですので留意すべき点です。また、子供のころに慣れ親しんでいた「ミドリガメ」と呼ばれるカメも、アカミミガメの子ガメですので規制の対象になります。

※)特定外来生物とは、外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。指定された生物の取り扱いについては、輸入、放出、飼養等、譲渡し等の禁止といった厳しい規制がかかる。（[環境省 HP](#) より）

アメリカザリガニと言えばウシガエルを連想します。初夏になると夜中に近所の池から聞こえてくるウシガエルの鳴き声がうるさかった経験がなつかしく思い出されます。アメリカザリガニは、もともとは明治時代に食用として養殖されていたウシガエルのエサとして一緒に輸入されましたが、両方とも野生化して外来種として定着した歴史があります。ウシガエルは夜行性なので夜になると活発に行動し「グオー、グオー」と大きな声で鳴き、まさに牛の鳴き声にそっくりなのでどちらかといえば騒音ですね。

さて、アメリカザリガニによる生態系への影響について触れます。在来水草が生い茂っている池にアメリカザリガニが侵入してくると、それまで透き通っていた水が濁ってくるのがよくあります。本来は水草が浄化してくれるのできれいな水になりますが、アメリカザリガニが水草や、水生生物や小魚も食べて、徐々に食物連鎖や栄養分の分解などの正常なサイクルがくずれて水質が悪化するので、水がどんどん濁ってしまうのです。その対策と



捕獲用ワナの様子

して、ワナを用いてアメリカザリガニを捕獲したり、池の水を抜いて駆除したり様々な取り組みが行われています。因みに、環境省の「[アメリカザリガニ防除マニュアル](#)」が参考になります。その中に捕獲手法の一つとして塩ビ管を利用した「人工巣穴」が紹介されています。

また、コイなど大型の魚はアメリカザリガニを捕食してくれるので駆除としてはたいへん有効だと思います。ただし、外来種のブラックバスは同様に捕食しますが、在来種の生態系に影響を及ぼす特定外来生物に指定されていることもあり、生物多様性保全の観点では好ましくない種類です。

ところで、自然界には食べる種と食べられる種が段階的に存在し、相互に関係し合っ

て生態系をつくっていますが、このような関係のつながりは食物連鎖と呼ばれています。食物連鎖はピラミッド型を構成していて、森の場合一番底辺に草木や水中の藻類などが位置し、その次に草を食べるバッタなどの昆虫がいて、この昆虫を食べるトカゲやカエルがおり、これらの生物を捕食する小動物や鳥がいます。ピラミッドの頂点にはオオタカなどの大型の鳥がいます。

都内でも善福寺川などの流域や公園でオオタカを観ることができます。オオタカの生態を繁殖期間に観察したことがあります（2022年3月～8月）。生まれたばかりの雛は真っ白な羽毛に覆われていて、ふ化して1か月くらいたつと幼鳥は成鳥並みに体も大きくなり、羽も生えそろってきます。そして8月頃に巣立っていき、その後1年くらいかけて成鳥になります。幼鳥は、頭や背は褐色、胸や



オオタカの雛と親鳥



オオタカの幼鳥

腹はクリーム色で、胸には褐色の縦斑（縦縞模様）があります。成鳥は、背面が青みを帯びた黒色、腹面は白色に細い波状の暗灰色の横帯があるのが特徴的で、目は黄色からオレンジ色をしています。一時期オオタカは絶滅のおそれがありましたが、近年都市部でも環境に適応して個体数が少しずつ増えてきているとのことです。

豊かな自然環境を保護するには、新しい環境に適応しながら本来の自然な環境に近づけていくことが大切なことだと改めて感じています。

《つづく》

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)